

受章、受賞 おめでとうございます！

☆令和2年秋 黄綬褒章受章 田中正一さん

令和2年秋、近江八幡市で肉用牛を飼養されている田中正一さんが黄綬褒章を受章されました。

田中さんは昭和34年から、家畜商を営んでいた家業に従事、その後、滋賀県家畜商業協同組合の理事長に就任され、長年にわたり、健全な家畜取引と県内外に向けた円滑な家畜流通を通じ、地域の畜産振興に大きく貢献されてきました。

また、平成18年に、自ら本格的に近江牛の肥育経営を開始され、県内の枝肉共進会

で県知事賞を幾度も受賞されるなど、近江牛の品質向上に取り組みられています。

多くの畜産関係団体の役員を務めるなど、県の畜産の発展に貢献され、そのリーダーシップに対する周囲からの信頼は厚く、自ら生産者として肥育技術の研鑽を続ける姿は他の模範となっております。今後とも健康に留意され、御活躍されることを祈念いたします。(藤井)



☆令和2年度 農林水産祭天皇杯受賞 有限会社古株牧場さん

令和2年11月、有限会社古株牧場（古株治明社長）さんが令和2年度第59回農林水産祭の多角化経営部門で「天皇杯」を受賞されました。この賞は過去1年に農林水産祭に参加する各行事で農林水産大臣賞を受賞した465点の中から、広く社会の賞賛に値する業績のあるものについて「天皇杯」「内閣総理大臣賞」「日本農林水産漁業振興会会長賞」の3賞が授与されます。

(有)古株牧場さんは、酪農および肉用牛肥

育経営の他、地元観光協会と連携した水稻栽培体験、自社牧場の生乳を使用した乳製品の加工販売、食育体験などにも取り組まれています。補助事業等活用した肉用牛の飼養頭数増加と高品質牛肉の生産および輸出取組など経営の多角化が高く評価され、このたびの受賞となりました。これからは地域の農業をけん引する経営体として一層の御発展をお祈りいたします。(諸岡)

☆令和3年春 黄綬褒章受章 有限会社宝牧場 田原善裕さん

令和3年4月、有限会社宝牧場会長の田原善裕さんが、黄綬褒章を受章されました。

田原さんは、14歳でお父様を亡くされ、林業を継がれましたが、18歳の時に当時農耕用に使われていた牛が農業機械に替わっていく様子に目をつけ、肉牛生産に夢を抱き、繁殖牛の飼育を始められました。その後、24歳の時にお母様を亡くされ、悲しみに暮れる中、繁殖牛を30頭に増やし、専門の畜産農家へと舵を切られました。会長は、「ピンチをどうやってチャンスに変えるかを考えることが大事やと思う。」と熱く語っ

ておられました。畜産一筋に60年、幾多のピンチをチャンスに変えてきた努力により、現在、乳用牛300頭、肉用牛1,300頭、豚80頭の飼育に加え、自家生産のミルクを使ったスイーツ会社と直営焼肉店も経営される県内でも最大級の牧場になっています。「夢がないといけない。やろうと思えばどんなことでも努力すれば追求できる。」と語られる会長の強いバイタリティに感服いたしました。(三溝)



褒章を手にする会長

